助成金活用の現状

助成金・補助金の活用は、厳しい経営を強いられる運送事業者にとってコストを抑えられるという、ありがたいモノだ。「知っている」と「知らない」では経営に影響してくる。ト協や国交省、地方自治体などが交付している一方で、手続きの煩雑さから使うことをためらう事業者もおり、「助成金を使う」「使わない」で事業者間に差が出ているようだ。

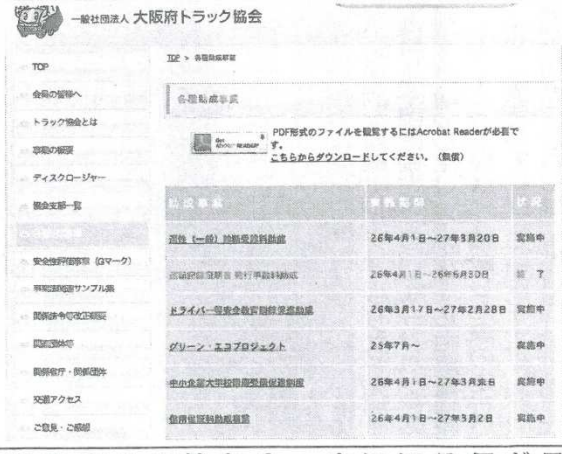
活用 荷主と協力し補助金を獲得

手続きが面倒、情報がない 活用なし

大ト協の場合、現在はドライブレコーダー導入助成やグリーン経営認証取得助成など約20種類の助成事業を行っている。大阪府高槻市の事業者は「協会に加入していないので、協会の助成金は知らない。運輸局や国が出している補助金もあるようだが、勉強していないのでよく分からない」という。同摂津市の事業者は「助成制度は活用しなければ意味がない。社長がしっかりと情報獲得にアンテナを張っておかなければいけないと感じている。助成を申し込みたくても期限が切れているということもよくある」と話す。

また、同東大阪市の事業者では、中小企業庁が週1回発行している中小企業向けのメルマガに登録しており、助成金情報はメルマガから仕入れているという。「e―中小企業ネットマガジン」は毎週水曜日の発行で、課題に取り組む中小企業の例や中小企業支援機構などが実施するセミナー、中小企業施策などの役立つ情報を知ることができる。また、社労士やコンサル会社によっては様々な助成金や給付金を分かりやすくまとめた冊子もあるようだ。

運送業界では、ドライブレコーダー、エコタイヤなど「モノ」に関する助成金を使う事業者は多いものの、高年齢者などの雇用促進や女性の活用、雇用調整のための助成金など「ヒト」に関する助成金の活用がまだまだ進んでいない。関係機関の窓口や社労士に相談してみるというのも一つの手段といえる。



大ト協の助成事業（HP）

越野運送 会社アピールに

一方で、荷主と協力し、環境にやさしい物流を推進したことで補助金をもらい、事業を成功させた事業者がある。大阪市都島区の越野運送は、荷主とパートナーシップ協定を結び、グリーン物流を推進したことで、平成22年度に国土交通大臣からグリーン物流優良事業者表彰を受けた。荷主と調達先のメーカー4社の間で、ミルクラン方式による集荷・納品を行ったことや天然ガス自動車導入で環境保全活動に取り組んだこと、モーダルシフトにより輸送効率を大幅に改善したことが評価された。

この事業では約2000万円の経費のうち、CNG車両、車両塗装、パレット、情報システムに対し約500万円が補助金として支給された。同社担当者は「この事業は荷主の理解が必要であるため、実現するとなると大変だった」と話す。同社では、助成金情報はト協の発行するトラック広報やHPだけでなく、異業種から情報を知ることが多いという。助成金を活用することで、会社のアピールにもつながるという成功例の一つだ。

運送業界は今、燃料コストだけでなく安全・環境に係るコスト増という問題を抱えている。危機を脱する手だての一つとして助成金・給付金の有効活用が挙げられるのではないだろうか。「助成金をもらっても数万円の違いにしかならない」「手続きのための書類作成が面倒」など、申請をためらう事業者もいる。しかし、助成金をうまく活用すれば、コスト面だけでなく会社の魅力アップにつながる可能性もある。（木村麻理奈）